

2009年1月15日発行(年4回刊) 第43巻第1号通巻169号

ISSN 1345-6105

# Stereo Sound

2009 · WINTER · N. 169

ステレオサウンドグランプリ2008  
'08-'09 ザ・ベストバイ・コンポーネント709選



Stereo Sound  
GRAND PRIX  
受賞製品一覧

ブランド名	型名	価格	ジャンル
GOLDEN SOUND賞	ビビッド・オーディオ	G1 GIYA	¥6,400,000(ペア)スピーカーシステム
#02	カバッセ	La Sphère	¥14,000,000(ペア)スピーカーシステム
#03	ピエガ	CL120X	¥4,500,000(ペア)スピーカーシステム
#04	ライダー	Ayra C3	¥3,400,000(ペア)スピーカーシステム
#05	KEF	Reference Model 207/2	¥2,800,000(ペア)スピーカーシステム
#06 →	ジンガリ	Twenty 1.12	¥2,600,000(ペア)スピーカーシステム
#07	ライダー	Ayra C1	¥1,560,000(ペア)スピーカーシステム
#08	フォステクス	G2000	¥1,200,000(ペア)スピーカーシステム
#09	ソニー	SS-AR2	¥1,200,000(ペア)スピーカーシステム
#10	エラック	FS210CE	¥800,000(ペア)スピーカーシステム
#11	タオック	FC3100	¥476,000(ペア)スピーカーシステム
#12	dCS	Paganini System	¥5,800,000(セット)SACD/CDプレーヤー
#13	EMMラボ	TSD1+DAC2	¥2,760,000(セット)SACD/CDプレーヤー
#14	ラックスマン	D08	¥950,000SACD/CDプレーヤー
#15	デノン	DCD-SX	¥800,000SACD/CDプレーヤー
#16	デジタルドメイン	D1a	¥1,500,000D/Aコンバーター
#17	エアー	KX-R	¥2,960,000プリアンプ
#18	パス	XP20	¥1,300,000プリアンプ
#19	ゴールドマンド	Telos 5000	¥38,000,000(ペア)パワーアンプ
#20	ソウリューション	700	¥13,000,000(ペア)パワーアンプ
#21	マークレビンソン	No53	¥7,200,000(ペア)パワーアンプ
#22	テクニカルブレーン	TBP-Zero/s	¥1,800,000パワーアンプ
#23	アキュフェーズ	M6000	¥1,700,000(ペア)パワーアンプ
#24	デジタルドメイン	B1a	¥1,000,000パワーアンプ
#25	エソテリック	A03	¥900,000パワーアンプ
#26	ジェフ・ロウランド	Continuum 500	¥1,450,000プリメインアンプ
#27	マッキントッシュ	MA7000	¥880,000プリメインアンプ
#28	ユニゾン・リサーチ	P40	¥500,000プリメインアンプ
#29	フェーズテック	P1G	¥286,000フォノカートリッジ

なく、かといって過去の技術を否定することもない、柔軟な発想をもつて、それぞれの手法で徹底的にスピーカーづくりを追求し、成果を上げている。三浦 そして彼らの人柄が製品から感じられるんですよね。

傅 そうなんです。物づくりをする人たちの恰好よさをあらためて感じた一年でした。

三浦 ぼくが印象的だったのは、日本メーカーが本当にいい製品を出してくれたことなんです。

上杉 29モデル中、国産は11機種ですから、数の上では少ないのですが、印象に残るモデルが多かったです。

三浦 例えばソニーのS-S-A-R2やフォステクスG2000を聴くと、作り手のセンスが音によく発揮されていて、日本人ならではのキメの細かい、ソツのなさもあり、日

Loudspeaker

ジンガリ

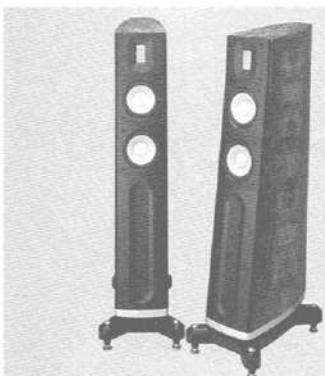
Twenty 1.12

¥2,600,000(ペア)

●型式:2ウェイ2スピーカー・バスレフ型●使用ユニット:ウーファー・32cm  
コーン型、トゥイーター・4.4cmコンプレッションドライバー+オムニレイホーン  
型●クロスオーバー周波数:800Hz●感度:97dB/W/m●インピーダン  
ス:8Ω●寸法／重量:W400×H1,140×D615mm／55kg●問合せ先:株  
式会社ロッキーインターナショナル☎03(5850)6960●試聴記掲載:167号



ZINGALI



## 5位

ライドー  
Ayra C2

¥2,360,000 (ペア)

小林	★★
傳	★★
和田	★★★

得点 7

●ライドー社がラインナップするアイラ・シリーズの3モデルは、何れも見事な出来ばえの傑作スピーカーだが、繊細さとスケール感のバランスが最もよいモデルという点ではC2がいちばんと思う。自社製RAIDHOリボントゥイーターと、2基のCERAMIXドライバーが聴かせるデリカシーの極致と言いたい澄みきった音は本当に比類がない。

(和田)

## 4位

ATC  
SCM100SL PT

¥2,000,000 (ペア)

佐久間	★★★
傳	★
細谷	★★★
三浦	★
柳沢	★
和田	★

得点 8

●上級機SCM100Ts!と同一ユニットを使用。型番末尾のPTはパッシブ・タワーを意味する。贅沢な上級機に比べ、仕上げを簡素(といっても同社の標準仕様)にすることで、リーズナブルな価格を実現した。そのため、音は若干ちがう。ATCならではの緻密なサウンドに変りはないが、Ts!よりもカドがとれて量感が増し、親しみやすい印象に。

(佐久間)



## 7位

ソニー  
SS-AR1

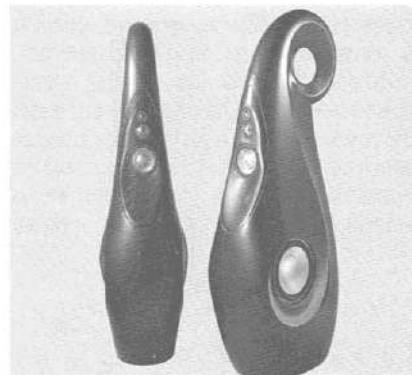
¥1,700,000 (ペア)

傳	★
三浦	★★★
柳沢	★
和田	★

得点 6

●著名な世界のハイエンド機と同格に競える見事な音楽表現力を獲得した逸品。経験を積んだ40代前半のアコースティック・エンジニア、彼の豊かな感性をソニーという大企業がサポートして才能を最大限に発揮させたのがSS-AR1だ。ドライバーの選択や手の込んだ国産エンクロージュアなど何れを取っても贅沢で確固たる採用理由がある。

(三浦)



## 5位

ビッド・オーディオ  
G1 GIYA

¥6,400,000 (ペア)

篠田	★
菅野	★★★★
傳	★★★★

得点 7

●4ウェイのマルチアンプ駆動が必要なオリジナル・ノーチラスにわたしはベストバイ票を投じたことはなかった。GIYAは、ずば抜けでワイドレンジ、全帯域にわたってストレスなくパワフルで、どこで聴いても音場感たっぷり。特記すべきはパッシブネットワーク内蔵である。わたしは本機を、使い難さの呪縛が解けたオリジナル・ノーチラスだと思う。

(傳)



## 9位

ジンガリ  
Twenty 1.12

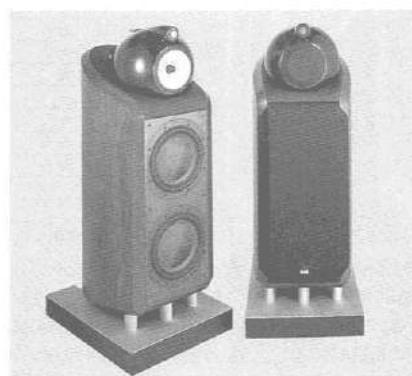
¥2,600,000 (ペア)

小林	★
佐久間	★
細谷	★
柳沢	★
和田	★

得点 5

●久々に日本再上陸を果たしたイタリアのホーン型機だ。天然木から削り出した美しい円形ホーンの開口を、ウーファーのサイズに合わせるのが同社機の伝統的な手法で、これにより両ユニットの繋がりが格段に高まるとい。けつてワイドレンジではないが、大型ホーンらしい直進性に富んだ抜けのいい音は、何よりもまずジャズを聴きたくなる、あの魅力だ。

(柳沢)



## 7位

B&W  
800D

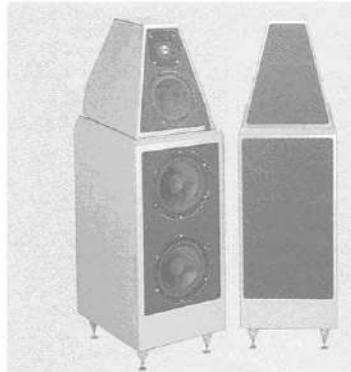
¥3,000,000 (ペア)

篠田	★
菅野	★
傳	★
三浦	★★★
柳沢	★

得点 6

●同社のフラグシップ機としてもお馴染みのはずだし、当SS試聴室のリファレンス機としてもお馴染みのはず。もちろん本機の魅力は優れたサウンドにあるのだが、それが官能的美音にも、逆にモニター機の克明さにも偏らず、その両面を備えた中庸をしっかりと捉えているのがさすが、SS試聴室のリファレンス機の座を、依然、譲る気配がないのもそれ故だ。

(柳沢)



**9位**  
Wilson Audio  
**System 8**  
¥3,700,000 (ペア)

佐久間	★
篠田	★
傅	★
三浦	★★
得点	5

●米国ハイエンドスピーカーの定番というべき盤石の存在。世代を重ねるごとに進化してきた最新WATT/PUPPYのコンビネーションは、奥行きが深く広大な音場空間を構築する。質感描写の繊細さと色彩感の豊かさ、そして低域方向の量感が不足しないことも本機の持ち味。音楽ジャンルをまったく選ばず、彫りが深く明確な音像定位を魅せる。(三浦)

**9位**  
JBL  
**Project K2**  
¥3,400,000 (ペア)

佐久間	★★
細谷	★★
三浦	★
得点	5

●DD66000が出たからといって、本機の魅力が色褪せてしまうわけではない。むしろ、基本的キャラクターの違いが際立つことになったといっても過言ではない。何事にも圧倒的なDD66000が椅子にもたれただとすれば、本機は身を乗り出して聴きにいく感じ、といったらわかつてもらえるだろうか。どちらも至福の時が過ごせるのだが。(佐久間)



**13位**  
B&W  
**B1**  
¥2,000,000 (ペア)

傅	★
三浦	★
柳沢	★
和田	★
得点	4

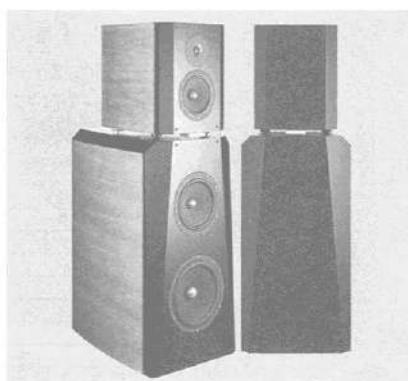
●B&Wオリジナル・ノーチラスの開発者が作ったスピーカーだが、例えようもなく静かで美しい音のスピーカーという点で、B1は見事なまでにサイズと価格のバランスが取れた傑作だと思う。オリジナルのユニットとその取付け法、FRPというエンクロージュア素材とユニークなデザイン。すべてが理に叶った、未来型だが完成された逸品。(和田)



**9位**  
JBL  
**Twenty 2.12**  
¥3,800,000 (ペア)

小林	★★★
篠田	★
菅野	★
得点	5

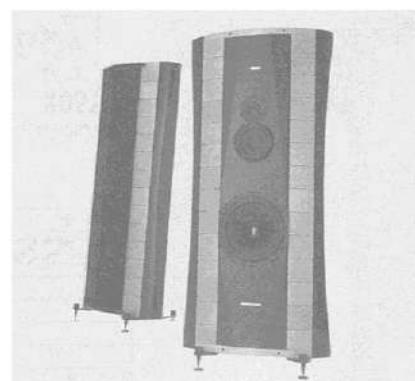
●本格的なコンプレッションドライバーと木製ホーンによる高域ユニット、2本の32cm口径ウーファーを搭載した2.5ウェイ構成の大型機だが、家庭用として無理なく使えるサイズが好ましい。30Hz~21kHzという周波数レンジと100dBという高能率を確保、音楽を躍動的に再現する。近年のスピーカーが忘れかけている高能率の魅力を再認識させる製品。(小林)



**13位**  
Paras  
**SR1**  
¥3,300,000 (ペア)

小林	★
佐久間	★
篠田	★★
得点	4

●Rushmoreに続く同社2作目のスピーカー。上(中~高音域)カバーと下(低音域)2つのエンクロージュアで構成される4ウェイフロア型だ。重厚な低音域に支えられた安定感に富んだワイドレンジサウンドが、オーケストラをスケール感豊かに再現し、女性ヴォーカルをピッピッドに歌わせて、聴く者を魅了する。巧みな音作りに心から感服。(篠田)



**13位**  
Sonus Faber  
**Elipsa**  
¥2,600,000 (ペア)

菅野	★
傅	★
柳沢	★★
得点	4

●一見、上級機Stradivari Homageそっくりだが、これは一回り小さいジュニア機。実物は意外に大きい上級機とは違う。本機はスタイルの印象どおりの使いやすいサイズがいい。サウンドは当然その上級機ゆずりで、弦楽器に通じる優美な仕上げを裏切らない。木質の響きと艶やかさでの弦楽合奏など最高。同時にオーケストラもジャズも……、多才ぶりだ。(柳沢)

# ダイナミック リアリズムの 復権に向けて

## ア・プリリアから 挨拶状 山本浩司

# Zingali



ちよいと古いソウル・ミュージックが好きなぼくが、最近聴きまくっている2枚のCDがある。ジェイムス・ハンターの『ザ・ハード・ウェイ』とイーライ

“ベーバーボーイ”リードの『ロール・ウ

イズ・ユー』。どちらもこの秋に発売され

たばかりの新作アルバムだ。ともに白人男性シンガーで、ジェイムス氏は英國出

身の46歳、イーライくんはボストン生れの25歳。年齢も出身地も異なる両者が

が、二つのアルバムの音のテクスチャア

は驚くほど似ている。

一言でいえば、いかにもアナログ録音

に音を聴かせて

「60年代メンフィ

ス録音のリイシューなんだ」と言つたら、首をかしげながらも信じる方、きっと

といふに違ひない。

『ザ・ハード・ウェイ』の内ジャケには、古くて太い音。08年作品とは思えない、木綿のざっくりした手触りを思わせるウォームなサウンドである。同好の士



掲載されているが、古色蒼然たるヴィンテージ・アナログ・イクイップメントがすらり揃っていて、思わず笑ってしまう。渡辺章さんのライナーノートによると、基本はスチューディオ製1インチ8トランソールは、かつてアビーロード・スタジオで使われていたものだそうだ。

この両アルバムをわが家のJBL S9800SEで聞くのが、最近のぼくの無上のヨロコビの時間。コクのあるビートに乗って気持ちよさそうに歌う二人のソウル・マニア。ジャンプ・ブルース・スタイルのギターを折かき鳴らしながら、サム・カツクへの敬愛に満ちた端正なヴォーカルを聴かせるジェームス氏。その名の通り、新聞配達少年のような紅顔のイーライくんは、若さをパクハッさせて往年のザン・ソウル・シンガーバーの力強いシャウトを聴かせる。もう最高。聴いていて思わず顔がほころんでしまった。

そんなわけで、最近はこの2枚を携えてメーカーや雑誌社の試聴室に出かけ、最新スピーカーの音を聴かせてもらうのだが、じつはけつこうガッカリさせられることが多い。オフマイク気味に捉えられたクラシックのピアノ曲やチエロ・

コンチエルト等を聞くとすごくいいのに、この2枚のCDを音量を上げて再生すると、ヒステリックで痩せた音に聴こえるスピーカーがほとんどなのである。しかも評価の定まつた高額なハイエンド・モデルほどダメだつたりして。もつと大音量でぶりぶり鳴らしたいのに。うちのJBLしなライケルの…。

そんな貧血体质の最新高級スピーカーに対する不信感が高まりつあった折り、この2枚のアルバムをぼくのイメージ通りの血色のよい音で聴かせててくれる楽しいスピーカーに出会った。イタリアから再上陸を果たしたジンガリのTWENTY 1・12である。

### コンプレッションドライバーと オムニレイホーンを組み合せた 中高域が大きな特徴の ジンガリのスピーカー

そんなわけで、最近はこの2枚を携えてメーカーや雑誌社の試聴室に出かけ、最新スピーカーの音を聴かせてもらうのだが、じつはけつこうガッカリさせられることが多い。オフマイク気味に捉えられたクラシックのピアノ曲やチエロ・

ジンガリのスピーカーは、中高域にコンプレッションドライバーとオムニレイホーンを採用していることが最大の特徴である。TWENTY 1・12は、ネオジウム・マグネットの磁気回路を抱いた44mm径チタン振動板（スロー・ト径は25mm）のコンプレッションドライバー+ホーンに、ホーンのマウス（開口部）径と同じ32cmウーファーを組み合せた2ウェイ・システム。ウーファーの振動板には、わが国の気候に最適と思える防湿加工が施されたセルロースが使われている。

オムニレイを使つたジンガリのスピーカーは、すべてホーン・マウス径とウーファー径を（ほぼ）一致させている。ユニット間の音響的融合を図り、システムの一体感を得るために説明だが、同社はとりわけこの設計手法にこだわりがあるようだ。

## ジンガリ Twenty 2.06

¥1,400,000(ペア)  
 ●型式:2ウェイ3スピーカー・バスレフ型●使用ユニット:ウーファー・17cmコーン型×2、トゥイーター・2.5cmコンプレッションドライバー+オムニレイホーン型●クロスオーバー周波数:1.2kHz●感度:92dB/W/m●インピーダンス:6Ω●寸法/重量:W265×H1,040×D380mm/22kg●問合せ先:株式会社インターナショナル 03(5850)6960



ザ・ハード・ウェイ  
ジェイムス・ハンター  
(ヒア・ミュージック/ユニバーサル UCCO3008)



採用されているオムニレイホーンは、無垢のイエローボーラのブロックを切削加工して独自の形状に仕上げたもの。表面がじつになめらかで美しい。深いスローと浅いホーンを組み合せて360度の円形放射バターンと140度の拡散角度(水平／垂直)を持たせている。この設計の狙いは、リスニングエリアを広げ、音場感を向上させ、巷間取り沙汰されるホーンくささ(鼻音効果)から逃れるためだろう。

ラウンド形状のエンクロージュアはMDF製。剛性が高く、叩くとコツコツといい音がする。背面に細長いシリット状のバスレフポートが設けられており、後ろの壁との距離で低音の表情が大きく変るタイプだ。入力端子はシングルワイヤリング仕様である。

ジンガリのスピーカーは、昔JBL製ユニットを採用していたが、TWENTYシリーズは、ウーファー、コンプレッショニストライバーともに、プロ市場で実績を持つトスカーナにあるB&CスピーカーISA社と共同開発したものである。そういうえば、ぼくは十数年前に来日した同社創設者ジュゼ

ッペ・ジンガリ氏に会ったことがある。シチリア島出身、63年生れということだから当時三十代前半だったと思うが、オムニレイホーンの優位性とJBLユニットの素晴らしさをカタコトの英語で熱を込めて語る彼を、その頃同社アドバイザーを務めていた元JBL社長のブルース・スクローガン氏がニコニコしながら見つめていたのを思い出す。

### ダイナミックなコントラスト 色濃い音像により、音楽が躍動。 大音量でも音の「姿かたち」が崩れない

本誌試聴室にて、TWENTY1・1を改めてじっくり聴かせてもらえる

ツペ・ジンガリ氏に会ったことがある。シチリア島出身、63年生れということだから当時三十代前半だったと思うが、オムニレイホーンの優位性とJBLユニットの素晴らしさをカタコトの英語で熱を込めて語る彼を、その頃同社アドバイザーを務めていた元JBL社長のブルース・スクローガン氏がニコニコしながら見つめていたのを思い出す。

ツペ・ジンガリ氏に会ったことがある。シチリア島出身、63年生れということだから当時三十代前半だったと思うが、オムニレイホーンの優位性とJBLユニットの素晴らしさをカタコトの英語で熱を込めて語る彼を、その頃同社アドバイザーを務めていた元JBL社長のブルース・スクローガン氏がニコニコしながら見つめていたのを思い出す。

ことになった。編集部に依頼して、自室で使用している、または今欲しい再生機器を用意してもらつて、勇躍試聴室へ向かう。

先述の2枚のCDの他、最近の愛聴盤LPとCDを次々に再生したが、すべてのディスクが鮮やかなダイナミック・コントラストと色濃い音像リアリティに彩られ、音楽がイキイキと躍動して聴こえることが改めて確認でき、うれしかった。とくにこのスピーカーが信頼できると思うのは、音量をどんどん上げていっても音楽の「姿かたち」がほとんど崩れることである。

現代ハイエンド・シーンでは、ピアニッシモの再現性、弱音時のリニアリティ

## Twenty 1.12

¥2,600,000(ペア)

- 型式:2ウェイ2スピーカー・バスレフ型
- 使用ユニット:ウーファー・32cmコーン型、トゥイーター・4.4cmコンプレッションドライバー+オムニレイホーン型
- クロスオーバー周波数:1800Hz
- 感度:97dB/W/m
- インピーダンス:8Ω
- 寸法/重量:W400×H1,140×D615mm/55kg

ELI "PAPERBOY" REED  
& THE TRUE LOVES

ROLL WITH YOU



ロール・ウィズ・ユーリーライ・ペーパーボーイ・リード  
(Qディヴィジョン/PヴァインPCD20035)





### Twenty 2.12

¥3,800,000(ペア)

●型式:2.5ウェイ3スピーカー・バスレフ型 ●使用ユニット:ウーファー・32cmコーン型×2、トゥイーター・4.4cmコンプレッションドライバー+オムニレイホーン型 ●クロスオーバー周波数:500Hz、800Hz ●感度:100dB/W/m ●インピーダンス:4Ω ●寸法/重量:W400×H1,500×D615mm/70kg



### Twenty 2.08

¥1,800,000(ペア)

●型式:2ウェイ3スピーカー・バスレフ型 ●使用ユニット:ウーファー・21cmコーン型×2、トゥイーター・2.5cmコンプレッションドライバー+オムニレイホーン型 ●クロスオーバー周波数:1kHz ●感度:93dB/W/m ●インピーダンス:6Ω ●寸法/重量:W300×H1,190×D440mm/33kg

の確保が重要なテーマとなつておらず、確かにそこに着目すると素晴らしいスピーカーは数多い。しかし、いっぽうで大音量時の音の姿の確かさが論じられることは少なく、またそれを提示できるスピーカーがどんどん減っているのではないかという気がしていただけに、このスピーカーの音を聴いて、なんだかとても頼もしい思いがした。

また、TWENTY 1.12で聴いてとくにいいなと思うのは、ヴォーカルと管楽器の再現性である。とくに声の表情の豊かさは最近のスピーカーの中では出色だらう。つい数年前まで工事現場で働きながら、ストリート・パフォーミングをしていたという苦労人ジェイムス・ハンターのしょっぱい声に込められた人生の哀感がしみじみと伝わってきて、深い感慨を覚えだし、この春ライノから

出した「オーティス・ブルー」(65年)の復刻CDに収められた必殺の名バラード「愛しそうで (I've been loving you too long)」のライヴ・ヴァージョンも、気絶するほど素晴らしかつた。オーティス・レディングの胸をかきむしるような神がかつたシャウト、アル・ジャクソンの風速1万メートルを思わせる壯絶なキックとシンバル。歌、演奏とともに赤い血がどくどくと流れていることをリアルに実感させ、ぼくを感激させたのである。

また『ブルースの真実』(オリバー・ネルソン) (スピーカーズコーナーの重量盤復刻LP) で聴けるフレディ・ハーバードのトランペットにも本気でシビレた。朝顔から放たれる宝石のような音の粒子がなんのてらいもなく、ぼくの頬めがけて直進してくる。ダルビッシュの剛速

球を目の当たりにしたかのような興奮。鼻の奥がつーんとした。おお、これがジヤズだぜ!

続いて、25mm砲弾型ドライバー+オムニレイホーンと17cmダブルウーハーを組み合せたTWENTY 2.06を聴いてみた。ダイレクトラジエーター・タイプに近い音場表現で、1・12ほどのダイナミック・コントラストの鮮やかさは感じ取れないものの、ジンガリらしい色濃い音像のコケが感じられ、ひとまず安心した。

ジンガリ。音楽を大きな音で聴いて、勇気や元気をもらいたいと考えるぼくのようなタイプのリスナーには、心躍るスピーカー・ブランドの再上陸だ。ダイナミック・リアリズムの復権に向けて、イタリア、アブリリアからのうれしい挨拶状である。

### リファレンス機器

●SACD/CDプレーヤー	ソニー SCD-DR1	¥1,200,000
●D/Aコンバーター	コード QBD76	¥680,000
●ADプレーヤー	リン Sondek LP12SE	¥1,925,000
●フォノカートリッジ	リン Akiva	¥500,000
●フォノコライザー	リン Linto	¥280,000
●プリアンプ	オクターブ Jubilee Preamp	¥4,500,000
●パワーアンプ	オクターブ MRE130	¥1,880,000(ペア)

1986年、イタリア・ローマ近郊アブリリアに設立されたスピーカーメーカーであるジンガリ。今年初夏より輸入が再開され、現在の日本でのライナップは、山本氏の試聴記載の2機種の他に、上記2モデルを加えた合計4機種となつてゐる。シリーズトップ機のTwenty 2.12は、中高域ユニットの上下に32cm口径ウーファー(スタガーモーション)を配した2.5ウェイの大型機。Twenty 2.08は中高域ユニットの上下を21cm口径ウーファー(パラレル動作)で挟み込んだ、仮想共軸型の2ウェイ機である。いずれも中高域は、同社が特許を取得する独自形状のオムニレイホーンとコンプレッションドライバーが受け持つ。なお、ウッド部は、標準のウォルナット仕上げ(Twenty 1.12、Twenty 2.06の写真)の他、受注生産でチェリー(Twenty 2.12の写真)、ナチュラル(Twenty 2.08の写真)が用意されている。

ジンガリ

Twenty 2.08 (写真左)

¥1,800,000 (ペア)

Twenty 2.06 (写真右)

¥1,400,000 (ペア)

## バランス良く密度濃い音。音楽を生き活きと再現 オムニレイホーンの上下にウーファーを配した仮想同軸配置型のトールボイススピーカー

小林貢

**Twenty 2.08** ●型式:2ウェイ3スピーカー・バスレフ型 ●使用ユニット:ウーファー・21cmコーン型×2、トゥイーター・2.5cmコンプレッションドライバー+オムニレイホーン型 ●クロスオーバー周波数:1kHz ●感度:93dB/W/m ●インピーダンス:6Ω ●寸法/重量:W300×H1,190×D440mm/33kg ●備考:写真の仕上げは受注生産のナチュラル。標準はウォルナット。他にチェリー仕上げあり  
**Twenty 2.06** ●型式:2ウェイ3スピーカー・バスレフ型 ●使用ユニット:ウーファー・17cmコーン型×2、トゥイーター・2.5cmコンプレッションドライバー+オムニレイホーン型 ●クロスオーバー周波数:1.2kHz ●感度:92dB/W/m ●インピーダンス:6Ω ●寸法/重量:W265×H1,040×D380mm/22kg ●備考:写真の仕上げはウォルナット。他に受注生産でナチュラル、チェリー仕上げあり ●問合せ先:株式会社オムニレイスピーカー 03(5850)6960



試聴したの

は、シリーズの  
エントリーモデル  
であるトウエ

ンティ2.06

と、その上級機  
のトウエンティ  
2.08。中

高域ユニット  
は両機共通で、  
イタリアB&

C社と共同開  
発した1イン  
チ口径チタン  
振動板採用の  
コンプレッショ  
ンドライバー

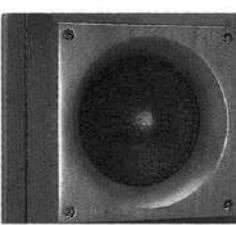
。磁気回路に  
はネオジウム  
磁石を搭載する。  
組み合せて  
いるホーンは前述  
のとおりだが、左右ペアは同じウッドブロック  
から削り出され、木目と音質のマッチングを  
図っているという。ウーファーは2.06が17  
cm口径を2基、2.08では21cm口径を2基搭  
載し、両機とも中高域ホーンの上下にそれぞれ  
1基ずつ配した、仮想同軸配置としている。振

動板は伝統的なバルブコーン（セルロース）だ  
が、防湿加工を施して耐候性を高めているという。

クロスオーバー周波数は2.06が1.2kHz、  
2.08は1kHzに設定。

音は両機とも音楽再生に必要な周波数レンジ  
を充分に確保するとともに、帯域内に密度の高  
さが感じられてバランスが良い。中高域にホー  
ン型を採用するスピーカーは過渡特性の良さが  
魅力で、それを活かすにはウーファーが高感度  
でなくてはならないが、2.06も2.08も

現代としては高い能率を確保し、ホーン&ドライ  
バーの過渡特性の良さを spoil することなく  
音楽を生き活きと再現するのが好ましい。そ  
れでいて、ホーン型にありがちな荒れた響きは  
感じさせない。音質傾向は両機とも同一と考え  
てよいが、上級機だけに2.08はいくぶん低  
域特性が高く感じられ、ヴォーカルなどの実体  
感のある音像が、バックの楽器群から鮮明に浮  
き上がってくるという印象だ。



Twenty 2.06に搭載された17cm  
口径コーン型ウーファー。オムニレイ  
ホーンと同じ、イエロー・ボーラー材  
から削り出されたホーンバッフル（開口部はオムニレイホーンとほ  
ぼ共通）に取り付けられている。

イタリア・ジンガリのスピーカーの特徴は、  
同社の特許技術「オムニレイ・テクノロジー」採  
用の、開口部を円形に仕上げた木製ホーンを搭  
載していることにある。当然、ここで紹介する  
トゥエンティイ・シリーズの2機種にも、北米産  
のイエロー・ボーラーの無垢材から削り出された美  
しいウッドホーンが搭載されている。

イタリア・ジンガリのスピーカーの特徴は、  
同社の特許技術「オムニレイ・テクノロジー」採  
用の、開口部を円形に仕上げた木製ホーンを搭  
載していることにある。当然、ここで紹介する  
トゥエンティイ・シリーズの2機種にも、北米産  
のイエロー・ボーラーの無垢材から削り出された美  
しいウッドホーンが搭載されている。